

After

腰窓のある壁面に、工具の収納システムができあがった。各機能の詳細や作り方はP68～69で解説



シェルフベースで簡単に!



Before

DIY工具の壁面収納システムを作る

快適な住まい作りに欠かせない壁面収納。

狭いスペースでも家具を増やさずに広い収納場所が確保できるのがメリットで、最近では壁面収納用のアイテムも種類が豊富になってきた。

そこで今回は新商品の「シェルフベース」を使った、お手軽収納作りの模様をレポートする。

レポート◎中村信之介(編集部) / 写真◎佐藤弘樹 / 取材協力◎中澤鑄造販売 ☎06-6981-5905 <http://www.nakazawa.ne.jp/>

突っ張り
いらす!?

簡単に施工できる! 壁掛け収納金具「シェルフベース」

石膏ボード、合板の壁などに取っつけ可能。樹脂プレート、金属プレート、ピン押し工具、固定用のピンとネジ、床保護シートがセットになっている。サイズは2種類。参考価格【大】798円、【小】698円(いずれも税別)。



用意した主な材料

2×4材(1820mm)6本、1×4材(1820mm)2本、1×6材(910mm)1本、ステンレスパイプ(25mm径)、有孔ボード(450×500mm)、集成材(18×450×910mm)、カスガイ3個、スリムビス(65mm)、シェルフベース【大】9個、シェルフベース【小】4個

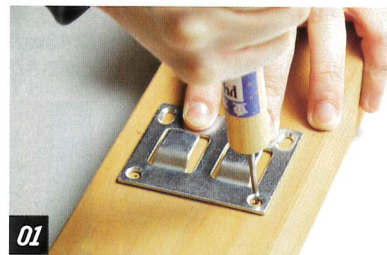
018年の年末にドゥーバー！編集部はリノベーション可能な2階建ての賃貸物件に引っ越しをした。最近では連載「ドゥーバー！編集部的職場改善計画」にて、編集部メンバーが持ち回りで手を加えているが、リノベはそこまで進んでおらず、1階の工房は本棚がある応接スペース、トイレの防音化を施したぐらいいだ。編集部による製作実践企画を行なうたびに増えていく道具や材料の端材置き場として、どんな倉庫化が進む様子を見て一念発起。ちょっと見栄えのいい工具&資材収納スペースを作りたくなった。

さて、どんな構造の収納を作ろうかと移動時間にスマホをポチポチして思案を巡らせていたら「シェルフベース」という壁掛け収納用の金具を見つけた。金具を既存の壁と木材に取りつけ、引っかけるだけで柱を立てることができるという新商品とのこと。固定する際にあくピン穴も非常に小さいので、取り外したときも目立たないから気軽に使えるぞうだ。新しもの好きな自分としては見逃すことができず、このアイテムを試してみることにした。

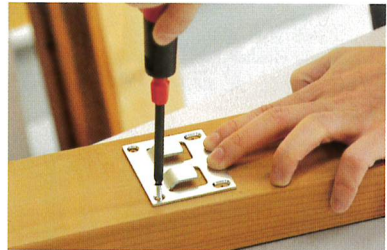
シェルフベースでの収納作りは下記で紹介しているとおり、狙いどおりにスムーズに行なえた。また、一般的な突っ張り金具とは違い、天井まで届く長さの木材を用意しなくてもいいので、1820mm（6フィート）などホームセンターで入手しやすい規格材をそのまま柱として使えたのが楽だった。部屋の窓下にも棚が設置できるのでスペースを無駄なく活用できたのもうれしい。

なお、シェルフベース【大】で棚として使う場合の耐荷重は、4段で合計80kg（【小】は40kg）と、強度の高さもポイント。これなら箱買いしたビスや塗料など重めの資材も安心してたくさん載せられる。また、材を横向きに固定すれば長押（なげし）として使え、2×材だけでなくカラーボックスに取りつけて壁掛け収納にすることもできる。アイデア次第でいろいろなタイプの壁面収納が、簡単に生み出せそう。そんなポテンシャルを秘めたアイテムだと感じた。

シェルフベースの取りつけ方



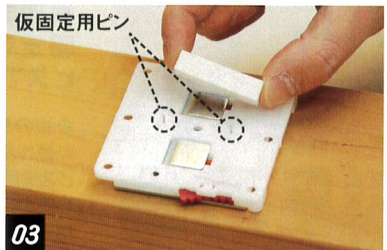
01 金属プレートを木材の広い面にあてがって、ビス位置に跡をつける



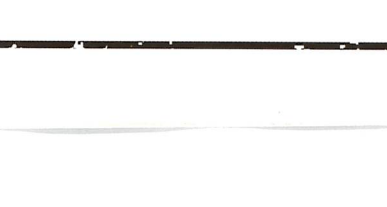
02 ドライバーを使い付属のビスで金属プレートを固定する。木材が堅いときはドライバードリルを使うといい



03 樹脂プレートをはめて片側のレバーを押してロック。スポンジをはずして仮固定用のピンを露出させる



04 取りつきたい位置に木材を近づけて、水平器で垂直を確認しながら木材を押し込んで壁に仮固定する



05 付属のピン押し工具でレバーを押してロックをはずす



06 木材を上方向にはずすと樹脂プレートが壁に仮固定できる



07 ピン押し工具の先端（穴あき）でピンを途中まで押し込む



08 反対側（穴なし）でピンを最後まで押し込む。うまく押し込めないときはカナヅチで叩いてもOK



09 すべての穴にピンを差し込めば樹脂プレートの固定が完了。再び木材を引っかけて、抜けないように両側のレバーを押してロックすれば柱が設置できる



10 シェルフベース使いこなし術

1

作りたい収納によってサイズを使い分けよう

2×材の木端側（狭いほうの面）を壁に向けて設置したいときは、シェルフベース【小】タイプを使おう。耐荷重は【大】タイプの半分ほどだが、棚受け金具なしでも手軽に棚板が固定できるメリットがある

動画で
チェック!



基本的な取りつけ方はどちらのサイズも同じだ





09 壁に柱が立った



10 木材をカットし、同様の手順で窓下にも柱を立てる



11 木材を横に取り付けるときは、シェルフベースを左右に固定する



12 設置場所によってはピン押し工具がレバーに届かない。そんなときは、薄い板材をすき間に入れてレバーは押しつけてロックをかけよう



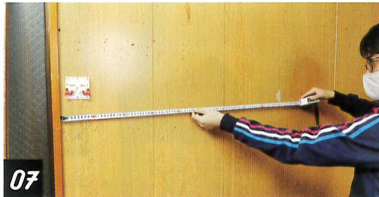
05

木材を押しつけて樹脂プレートを壁に仮固定



06

付属のピンで樹脂プレートを固定する。今回の施工現場は薄い化粧合板の壁だったが、厚さ3mm程度だったのでピンでも固定することができた



07

寸法を測り、木材の取り付け位置を決めたら同様の手順で樹脂プレートを壁に固定していく



08

柱1本使用の場合はシェルフベースを上下に取りつけて安定感を高めよう



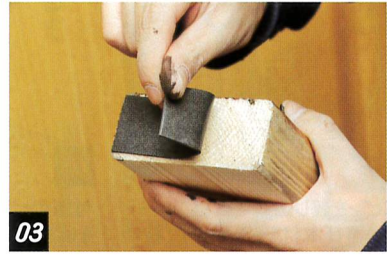
01

木材はあらかじめ水性ステインで塗装しておく。有孔ボードと集成材には黒板塗料を塗った



02

木材に金属プレートを固定。なお、柱として使う場合、プレートの取り付け位置は床から1500mmの高さを推奨している



03

付属の床保護シールを木材に張りつける



04

垂直を確認しながら取り付け位置を決める

シェルフベース使いこなし術

2

01 下地センサーで間柱の位置を探し、取り付け位置を決める



02 固定するときには樹脂プレートの大きい穴に向かってビスを打とう

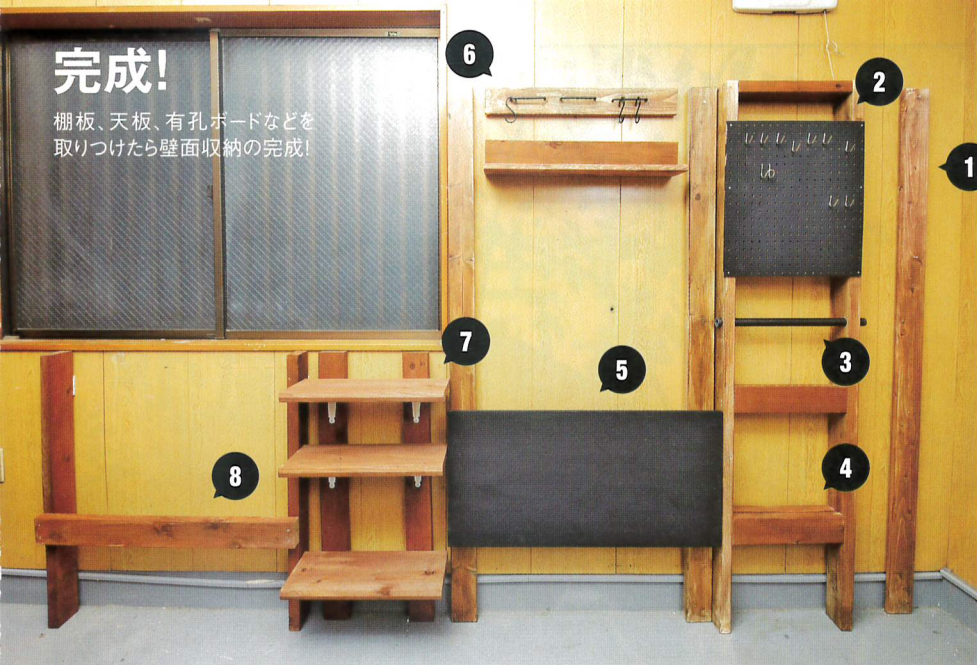


樹脂プレートの固定はビスでもOK

合板の壁や、硬くてピンが入らない壁に取り付けたいときは、別途ビスを用意して固定しよう。ビスを使う場合は壁の下地を探す必要があるが、ピンを使うよりも強力で固定することができる。

完成!

棚板、天板、有孔ボードなどを取りつけたら壁面収納の完成!



1 シェルフベースを上下に固定した柱を立てて、ビスを軽く打ち込んでフック代わりにしたお手軽収納



1 ハンガーラック

6 長押しラック



横向きに木材を固定し、上段はカスガイを打ち込んでS字フックを引っかけた。下段は下側から1×6材をビス留めしてL字に組んだだけのお手軽仕様

2×4材を柱の手前と奥側にそれぞれ固定し、2×4材の間に生じたすき間にノコギリを差し込んで収納する



4 ノコギリホルダー

専用フックを使って工具類をディスプレイしながら収納



2 有孔ボードの壁掛け収納

7 耐荷重80kgのシェルフ



厚みのある棚板を取りつけ、頑丈な収納棚に。重いビス箱も不安なく載せられる



5 折りたたみ式テーブル



折りたたみ式棚受け金具を使い、幅広の集成材を固定。ちょっとした作業台として使え、黒板塗料を塗ったので設計図やメモがとれる仕様に

8 端材収納



柱に適当な高さで横棧を取りつけられ、端材などを置くのに便利な収納スペースのできあがり

3 ペーパー&ビットホルダー



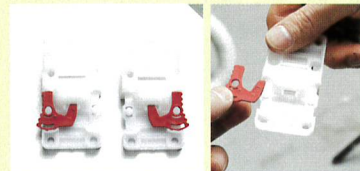
ペーパーホルダーは、柱に30mm径の穴をあけてステンレスパイプを通して製作。ビットホルダーは、2×4材の木端面に10mm径×深さ10mm程度の穴を等間隔にあけて柱に取りつけた

シェルフベース使いこなし術

3

施工場所に合わせてロックレバーをつけ替える

ロックレバーは着脱可能。壁際だったり、柱が隣り合うときなど、設置する場所によってロックができないときはレバーをつけ替えてから固定しよう。



ロックレバーは簡単に取り外しできる